

藤枝市



事例集



Fujieda City





目次



事例		ページ 番号
1	持続的な成長と事業承継を 西光エンジニアリング株式会社	03
2	価値提供のための技術向上 株式会社佐藤工業所	05
3	茶の文化・産業の時流適応 藤栄製茶株式会社	07
4	酒造りの経験と感覚を可視化 株式会社志太泉酒造	09
5	栗の木家具屋 次世代の基盤を 遊木舎西尾株式会社	11
6	地元企業の経営を支える DX 吉田道明税理士事務所	13
7	システムに業務を委ねる DX 株式会社共立アイコム	15
8	業務改善で提案力の向上を 株式会社島村膳文堂	17
9	QC 活動と連動した DX 推進 東西工業株式会社	19
10	DX で働きやすい職場づくり 株式会社エクノスワタナベ	21

はじめに ～ 地元企業の DX 事例に学ぶ ～

DX 実践のステップ



DX レポート 2（経済産業省、令和 2 年 12 月 28 日）を基に作成

経済産業省の資料によりますと、「DX（デジタル・トランスフォーメーション、以下、DX）」とは、「データやデジタル技術を使って、顧客目線で新たな価値を創出していくこと。また、そのためにビジネスモデルや企業文化等の変革に取り組むこと」と記されています。

DX の推進は、地域経済の活性化や企業の持続可能な成長につながるとして、地方の中小企業においても急速に関心が高まってきました。国も IT 導入補助金などで企業の取り組みを後押ししている状況で、藤枝市としても、国の補助制度に連動した独自の IT 導入補助金制度を設け、多くの地元企業に有効活用していただいております。

そこで、国と藤枝市の IT 導入補助金を活用して DX を推進している地元企業の皆様にご協力いただき、補助金で導入した IT ツールとその効果、今後の展望などを取材し、本事例集としてまとめることとしました。地元企業の取り組みに学び、自社の DX 推進のヒントが得られましたら幸いです。

2024 年 8 月
藤枝市 産業振興部 産業政策課



事例1 西光エンジニアリング株式会社

持続的な成長と事業承継を

焙煎・乾燥機器の研究開発企業として特殊な技術を保持し、注目を集める西光エンジニアリング株式会社。岡村社長は精力的に事業活動に取り組む一方で、将来を見据えてDXを推進し、持続的な成長と事業承継を目指しています。

今回の取り組みの目的

- 開発業務の効率化
- 仕事ノウハウの社内共有
- お客様情報の有効活用

DXで目指すこと

- 持続可能な成長
- 円滑な事業継承
- お客様情報の有効活用

DXを実現するために 補助金で導入したITツール

業務効率化

- SOLIDWORKS 3DCAD
- パソコン (3DCAD用)
- モニター (3DCAD用)

情報共有

- NICE 営業物語 on kintone

名刺管理

- ApeosPlus™ Cards R

開発と営業のIT化推進 両現場からDXの道を拓く

補助金活用前の状況を教えてください。

弊社は、既に数年前からIT化・デジタル化への取り組みに注力してきました。補助金の導入前は、在宅勤務ができるようにネットワーク環境の整備やパソコン導入を進めたり、資材管理や会計はソフトを使用して業務環境を整えたりしてきました。そして、個々のIT化の取り組みを大きな流れ(II DX)につなげていくために、ビジネスプランから変えていくと試行錯誤している段階です。

どのような効果がありましたか？

まず、開発業務の効率化を目的に導入した「SOLID



WORKS 3D CAD」は、開発期間の短縮に大きく貢献しています。特に、搬送設備に付随する「シユート」のような小さな部品の設計を三次元で確認できるようになったことで、開発時間が短縮されました。営業支援ツールの「NICE 営業物語 on kintone」は、社内情報の共有ツールとして役立っています。異なる業務を担う社員同士が仕事の流れを共有することで、DXにつなげていくこ

DXで目指す今後の展望を教えてください。

という考えです。また、名刺管理ツールの「ApeosPlus Cards R」は、お客様情報の管理を目的に利用しています。来年度からは年賀状に代わって年頭の挨拶メールを送る予定です。現在進行形で、今回の補助金で導入したツールはすべてフル稼働している状態です。

ITツールの導入やDXを推進し、「開発期間を半年短縮する」という目標を掲げていました。3DCADの導入により目標を達成することはできましたが、業界で勝ち抜いていくためにはさらなる業務効率化が必要で、3DCADのみでは対応しきれないと思っております。その解決策として、「生成AI」の導入を検討しています。まだ発売されたばかりの新し

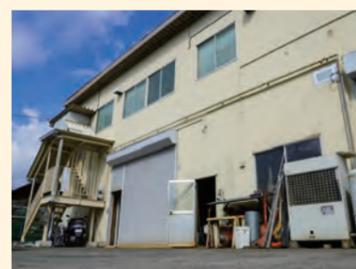


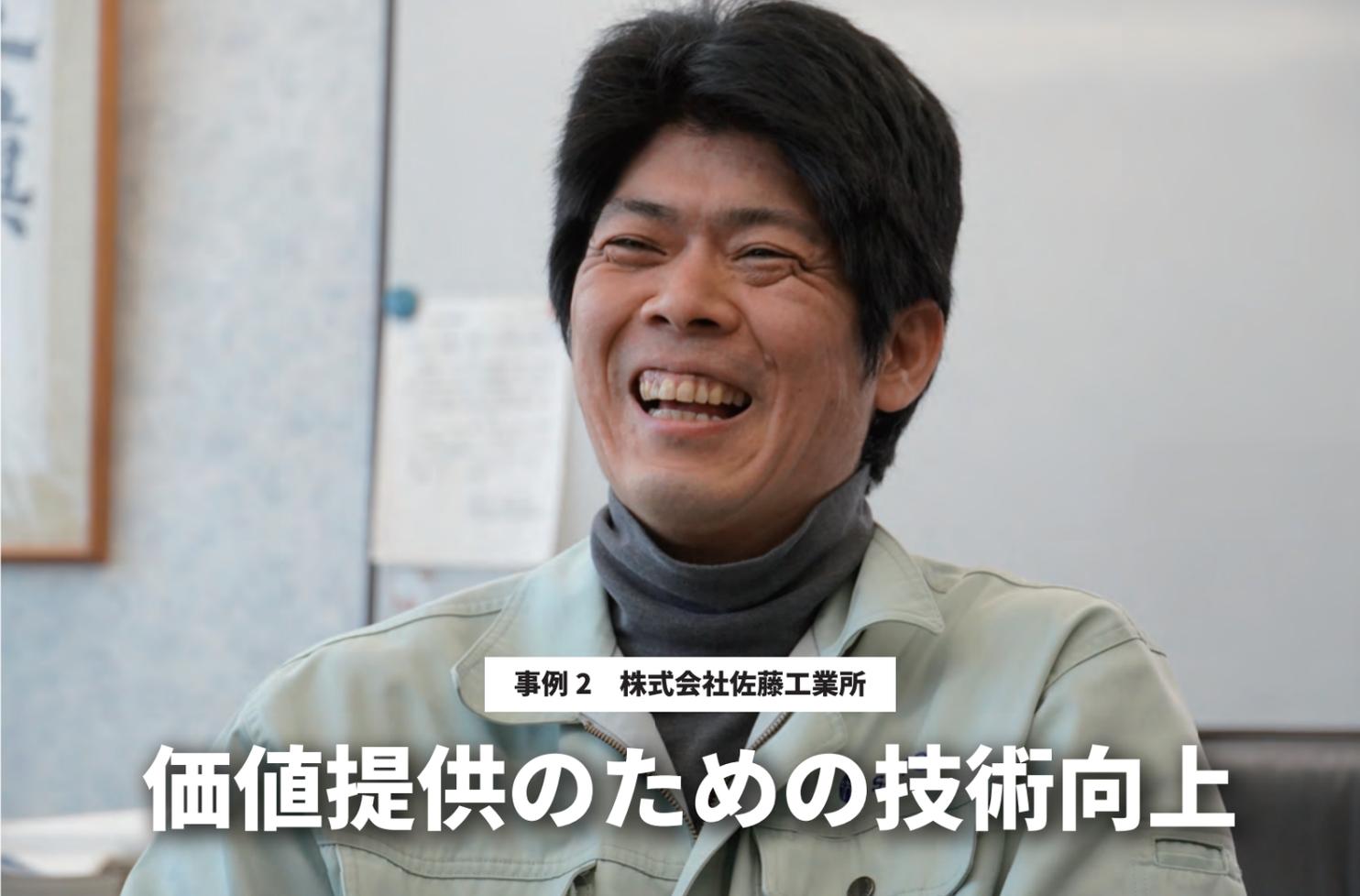
いサービスですが、日本語処理性能が高く、画像も認識できる点に惹かれ、昨年から注目していました。弊社の機械製造では、構想から実験までは、ほぼラフ画を使用しながら進行しています。その画を生成AIに取り込むことで、最適なものを自動的に判断してもらい、納期の短縮につなげていくと考えています。全社員が社内のあらゆる業務に生成AIを活用することで、弊社のノウハウを学習させ、いずれ事業承継のツールとして、次の経営者の指針となるような参考意見を出力し、その中から選定していくような活用ができたかと考えています。

会社概要

- 【所在地】 静岡県藤枝市高柳3丁目30-23
- 【事業内容】 焙煎・乾燥機器の研究開発、生産
- 【創業】 1987年10月
- 【代表取締役】 岡村 邦康
- 【従業員数】 12名
- 【サイト】 <https://seikoeng.jp/>

Web サイト





事例2 株式会社佐藤工業所

価値提供のための技術向上

型枠専門メーカーとして、全国各地の公共事業に携わり、軌道、枕木、橋桁、トンネルなどの型枠を製作・提供している株式会社 佐藤工業所。仕事の精度をより高め、お客様にとって価値あるものを提供する目的で、技術の向上につながるDXに取り組んでいます。

今回の取り組みの目的

- 全社員の3DCAD利用環境整備
- お客様への説明品質向上

DXを実現するために 補助金で導入したITツール

業務効率化

2D/3D 統合 CAD システム 「CADSUPER Works」

3次元設計・製品設計・図面作成・コミュニケーション機能を兼ね備えた、3次元CADソフトウェア

DXで目指すこと

- 人が関わる仕事の価値向上
- 若手社員に正確な技術の伝承
- お客様にとって価値あるものの提供



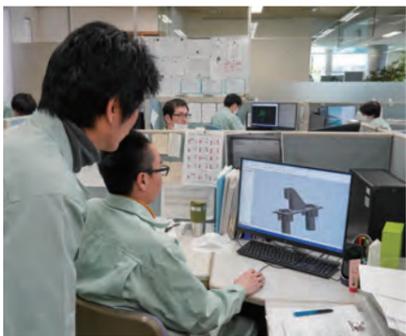
3Dの図面でわかりやすく お客様に伝える技術高める

補助金活用前の状況を教えてください。

10年ほど前から、若手社員を中心に3DCADが使える環境を整備したり、製造現場には刃先の状態を測定する測定器や、図面をプログラミングで動かす機械を取り揃えたりしてきました。今回の補助金では、全社員が3DCADを使用できる環境を整えるために、ソフトの追加購入を計画しました。

どのような効果がありましたか？

お客様とのコミュニケーションが各段に取やすくなりました。お客様に図面の説明をする際に、コンク



リートのブロックに穴を開け、鉄筋を通すといった、2Dでは伝わりづらい構造を3次的に表すことができるようになったため、より伝わりやすくなったと感じています。また、社内においても2Dの図面から3Dデータに構築し直して機械に読み込ませていた作業を省略することができました。まだ導入から半年ほどなので、社員が操作に慣れなところもありますが、

DXで目指す今後の展望を教えてください。

研修の機会を設けるようにしております。操作知識が高まれば、さらなる効果が見えてくる気がします。

今後も様々なITツールや新しい機械を取り入れながら、人が介在することで付加価値が高くなる業務に社員が時間を費やせるようにしていきたいと思っています。

弊社は少量多品種の型枠製造工場で、毎回違う型を製造するため、組み立てロボット等を導入しても、機械に覚えさせているうちに工程が終了してしまします。それよりも、長年培われた職人の技術や感覚、危険予知といった経験がものを言う領域に測定器やITツールを導入して、若手社員へ正確に伝承していくことを目指したいのです。コ



ンマ数ミリの凸凹を見つける指先の感覚を、モーションキャプチャやセンサーで測定したり、現場・工場内の危険を、職人と同じ感覚で察知することができ機械やツールがあれば良いなど思っています。 私たちの使命は、「お客様にとって価値あるものを提供する」ことなので、その本質を見失わず、目的を果たしていくために、今後もデジタル活用を進めていきます。

会社概要

- 【所在地】 静岡県藤枝市岡部町岡部 1947-1
- 【事業内容】 コンクリート用鋼製型枠の設計・製造
- 【創業】 1954年
- 【代表】 代表取締役 佐藤 護仁 佐藤 鐘允
- 【従業員数】 67名
- 【サイト】 <https://www.sato-kg.co.jp/>

Web サイト





事例3 藤栄製茶株式会社

茶の文化・産業の時流適応

茶町で創業した製茶問屋として、藤枝の茶産業の活性化と日本の茶文化の発展に貢献することを目指す藤栄製茶株式会社。時田社長は、社会の変化やお客様の求めに応じるかたちで必要となるIT化に取り組み、DXの道を一步ずつ歩んでいます。

今回の取り組みの目的

- インボイス対応
- システムの操作性を向上させ
事務職の誰もが入力しやすくする

DXを実現するために 補助金で導入したITツール

業務効率化

- 茶業種向け総合管理システム「茶ばしら」 ※改修

DXで目指すこと

- 事務業務の効率化とデータ活用
- 製造現場の品質管理向上
- お客様のニーズに応じた体制構築



事務効率化とインボイス 次は製造管理と品質向上へ

補助金活用前の状況を教えてください。

茶業種向けの総合管理システム「茶ばしら」を導入したのは2010年のことです。以来、製造販売管理に関わる事務の効率化を進めてきました。今回はインボイス対応を主軸に、同システムの改修を計画しまし

た。給与計算や勤怠管理は税理士に業務代行をお願いしていますが、マクロを組んだExcelのファイルでダブルチェックしています。

どのような効果が
ありましたか？

まずは無事にインボイス対応を実現しました。あわせて入力フォーマットを整備して作業がしやすい環境を整え、数名の事務員が誰でもシステムを活用できるようにしました。システム



活用に伴い、ペーパーレス化も進んでいきます。IT活用に詳しい社員が中心になって動いてくれますが、次の取り組みとして、受注伝票に基づき、製造

DXで目指す今後の
展望を教えてください。

現場に指圖書を共有できるようにする取り組みも始まりました。



お茶の製造過程では、お茶以外の植物片や虫など様々な異物の混入リスクがあり、細心の注意が必要です。そこで、品質管理の強化策として「異物除去機」の導入を検討しています。高感度カメラが採用されている新しいタイプの異物除去機は、異物の認識精度が高まり、これまで除去できなかったレベルの異物も検



知・除去することができません。目視の作業には限界がありますので、こうした製造現場における品質管理の領域でテクノロジーを活用していけたらと思います。セキュリティ面の心配はありますが、今後はシステムの連携やクラウド化も検討は必要だと思っています。先頭を切ってDXに取り組んでいるという感じではありませんが、「IT導入補助金」や「ものづくり補助金」「先端設備等導入計画」など、中小企業を支援する制度を活かし、今後もお客様の必要に応じたDXを進めていく予定です。

会社概要

- 【所在地】 静岡県藤枝市茶町 1-1-11
- 【事業内容】 茶葉の製造・販売
- 【創業】 1950年
- 【代表】 代表取締役 時田 至
- 【従業員数】 9人
- 【サイト】 <https://www.toei-seicha.com/>

Web サイト





酒造業界は国税庁の管轄で製造過程の記帳義務があります。米をどれくらい使ったのか、製造中のタンクから他のタンクへどれくらい移動したのか等を厳密に帳簿に記帳しなければいけません。また、その帳簿

補助金活用前の状況を教えてください。

繁忙期の事務作業を効率化 うまい酒造りにデータ活用

を元に報告書・申告書の作成も必要のため、専用のシステムを検討しました。

どのような効果がありましたか？

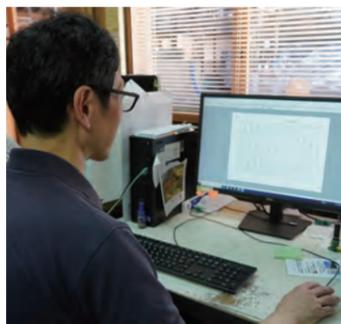
酒造業向け生産管理システム「造りex(つくりっくす)」を導入したことで、感覚的には2〜3割程度の事務作業の効率化が図れました。システムにデータを入力するようになったことで、例えば「昨年のもろみの温度経過はどうだったのか？」と帳簿を見返さなくても、比較データをパソコンの画面上で確認できるようになりました。冬場の酒造りの期間、毎日杜氏が手書きしていた作業指示書も、システムから出力できるようになりました。



事例4 株式会社志太泉酒造

酒造りの経験と感覚を可視化

明治15年創業の株式会社志太泉酒造。瀬戸川の伏流水によって仕込まれた清酒「志太泉」は、全国新酒鑑評会で20回もの金賞に輝いています。そんな老舗の酒造が目指すDXは、職人の長年の経験と感覚をデータ化し、経営に活かす「データドリブン経営」です。



酒米(さかまい)の産地についてもトレーサビリティができるようになり、複数原料米の場合、どの米を何%使用したかなどの管理が楽になりました。

まだ入力に慣れないことや、システムでは矛盾があるエラーになることもあるため、手書きの記帳は残していますが、将来的には無くしていきたいです。

DXで目指す今後の展望を教えてください。

すでに導入済みだった販売システムに続き、今回は生産管理システムを導入し



ました。この生産管理システムを活用することで、これまで社長や杜氏にしかできなかった、経験と感覚を必要とする業務を、データに基づき誰にでもできる仕事にしていくと考えられています。IoT導入補助金とあわせて、「ものづくり補助金」も活用し、米を冷ます機械を導入しました。この機械も、ベテラン職人の感覚を若い職人が引き継いでいくことに役立ちます。将来的にはIoTセンサーなどを利用した温度管理の自動化や生産工程のデジタル化も見据え、データ経営の実践を目指しています。

今回の取り組みの目的

- 国税庁《記帳義務》の効率化
- 生産管理事務の効率化
- 酒造りの情報のデジタル化

DXを実現するために補助金で導入したITツール

業務効率化

- 「造りex」(生産管理) スタンドアロン版
- パソコン
- モニター

DXで目指すこと

- 酒造りの経験と感覚の継承
- データを活用した経営の実践



会社概要

【所在地】 静岡県藤枝市宮原 423-22-1
 【事業内容】 日本酒の製造・販売(酒蔵)
 【創業】 1882年
 【代表】 代表取締役 望月 雄二郎
 【従業員数】 8名
 【サイト】 <https://shidaizumi.com/>

Webサイト



2023年秋、販売管理システム「販売大臣NX」を導入しました。以前は別のシステムで伝票の発行・売上の処理を行っていましたが、そのシステムが販売終了になり、インボイス制

補助金活用前の状況を教えてください。



業務を止めない基盤づくり 販路開拓マーケティングも

度への対応も急務でした。そこで、業務が停止するリスクを避けるため、システムを入れ替えることにしました。

どのような効果がありましたか？

システムの移行は無事に完了。請求書の作成から伝票出力など一連の事務作業とインボイス制度対応の環境が整いました。データの修正も以前より簡単になりました。今回導入したシステムは、仕入・在庫管理機能も有しています。現在は受注、売上、請求、生産スケジュールを独自のエクセルファイルで別管理していますが、次のステップでは、これら同システムに集約でき



事例5 遊木舎西尾株式会社

栗の木家具屋 次世代の基盤を

栗の木を使った無垢素材の家具メーカー・遊木舎西尾株式会社。長く人の暮らしを支える家具となるよう祈りを込め、職人がデザイン・製作し、県内外の小売店や一般消費者に販売しています。西尾社長は事業基盤の強化と次世代への技術継承を目指し、DXを推進しています。

ば、さらなる効果が期待できると考えています。



DXで目指す今後の展望を教えてください。

ここ数年、オリジナル家具の販路開拓を目的に、デジタルマーケティングに注力してきました。Webサイトやオンラインショップの運営、SNSでの情報発信など、社員が熱心に取り組んでくれています。また、ふるさと納税の返礼品を出品する機会も有効活用。地域産業としての認知度向上を図りながら、既存の取引先だけでなく、工

今回の取り組みの目的

- 販売管理システムの入替え
- インボイス制度への対応
- 事務作業の効率化

DXを実現するために 補助金で導入したITツール

業務効率化

- 販売管理システム「販売大臣NX」
- パソコン

DXで目指すこと

- マーケティングによる販路拡大
- こだわりの家具製造技術の継承
- 事業基盤の強化

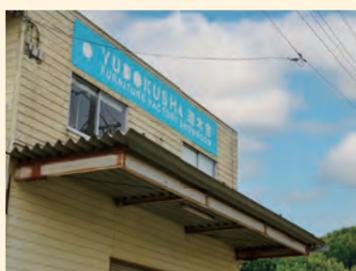


ンドユーザーとの接点も増やす活動を続けています。家具は人の暮らしを長く支えるアイテム。特に自然素材の家具は、経年変化で色に深みが増し、傷も修繕でき、アンティークとしての価値も高まります。こうした「一生もの」をつくる仕事を次世代に引き継いでいくために、手加工と機械加工を融合させ、コスト面やオリジナル性にこだわった家具づくり、システム化、職人の育成、デジタルを活用した販路拡大など、私たちなりのDXを進めていきたいと思えます。

会社概要

- 【所在地】 静岡県藤枝市潮 106-1
- 【事業内容】 オリジナルデザインの家具の製作・販売
- 【創業】 1900年
- 【代表取締役】 代表取締役 西尾 正勝
- 【従業員数】 5人
- 【サイト】 <https://yu-bokusha.com/>

Web サイト





書類があふれている事務所をなんとかしたいと思い、15年ほど前からペーパーレス化への取り組みを始めました。顧問先のインボイス制度や、電子帳簿保存法への対応支援で、ますます事務が煩雑になることが予想されたため、それらに対応可能な会計システムのクラウド環境を整備することにしました。

補助金活用前の状況を教えてください。

どのような効果がありましたか？

ミロク情報サービスが提供する会計事務所向けの総合業務パッケージシステム「ACELINK NX-Pro」では、通帳のコピーやレシート、領収書などのスキャン画像データをAIOCRエンジンで解析し、仕訳データを自動生成して、会計システムに連動することができま

す。これまでは、目視で、登録番号や混在している異なる税率を確認することに、多くの手間がかかって

いました。そのため、人為的ミスも多く、職員が入力してくれたデータを見直す時間も必要だったのですが、認識精度が高く、仕訳まで自動化されたシステムを導入したことによって、

証憑をスキャンし自動仕訳 煩雑な事務をAIで効率化

地元企業の経営を支えるDX

事例6 吉田道明税理士事務所

1998年に開業して以来、親子2代にわたり、税理士として地元企業の経営をサポートしてきた吉田道明税理士事務所。インボイス制度や電子帳簿保存法への対応をはじめ、企業に不可欠なバックオフィスのDXを推進する立場となり、地元企業を牽引しています。



作業時間は大幅に削減されました。AI対応により、使えば使うほど作業効率が高まることで、顧問先の記帳代行や電子帳簿管理業務などの支援もスムーズになり、新規顧客の受付も可能になりました。

DXで目指す今後の展望を教えてください。

顧問先の業種は様々ですが、中小・零細企業を取り巻く環境は、働き方改革による人材確保の困難や、仕入額や人件費の増額などにより、とても厳しくなってきています。税理士は数字



を知る立場なので、お客様とは常に「本音トーク」です。時には厳しい指摘をしなければならなかったりと、大変なこともあるが、とてもやりがいのある、楽しい仕事でもあります。今後、法改正などの「変化への対応」を専門家として担いつつ、お客様と一緒にDXを考え、企業の成長に貢献できたらと思っています。地域で頑張る若手経営者たちの支援もしたいと思っていますので、彼らと顔を合わせて学び合う時間を確保するため、引き続きDXに取り組んでいきたいと思

今回の取り組みの目的

- インボイス制度への対応
- 電子帳簿保存法への対応
- 業務の効率化

DXを実現するために 補助金で導入したITツール

業務効率化

- 会計事務所向けERPシステム「ACELINK NX-Pro」(ミロク情報サービス)
- スキャンスナップ(リコー)

DXで目指すこと

- 変化に対応し続ける業務環境
- 顧問先の成長、地域経済に貢献



会社概要

【所在地】 静岡県藤枝市小石川町 1-2-15
 【事業内容】 会計業務・税理業務・保険代理業務
 【創業】 1998年
 【代表】 所長税理士 吉田 道明
 【従業員数】 5名
 【サイト】 <https://www.zeimu-yoshida.com/>

Web サイト





事例7 株式会社共立アイコム

システムに業務を委ねる DX

お客様・自社・地域の DX 推進を目指す株式会社共立アイコムは、部署横断のプロジェクトや外部コンサル導入等で、積極的な情報収集と業務改善に取り組んでいます。藤木常務取締役管理部長は、企業の心臓部である経理業務の DX を実現しました。

今回の取り組みの目的

- 経理業務のフロー見直しと効率化
- 法改正への対応

DXを実現するために 補助金で導入した IT ツール

業務効率化

基幹業務システム「奉行クラウド」(OBC)

※勤定奉行、商奉行、債権奉行、債務奉行

DXで目指すこと

- 次世代への業務リレー
- 経営ストーリーに応じた取り組み
- 経験値の共有



システムにフローを合わせ 二人業務を一人対応可能に

補助金活用前の状況を
教えてください。

自社運用のサーバでOBCの会計システム「勤定奉行」を利用していましたが、エクセルで補っている部分があったり、法改正への対応が必要になったり、時代の流れの中で見直しが必要でした。検討の結果、「奉行クラウド」に移行し、「商奉行・債権奉行・債務奉行」などを導入しました。

どのような効果が
ありましたか？

実は検討段階の途中で、一緒に業務を担ってくれていた社員が退職し、一人で準備を進めなければならなくなりました。しかし、メー



カーのサポートを受けながら、何とか無事運用に至りました。結果的には、二人で対応していた業務量を一人でこなせる環境が整いました。目指したのは、システムで業務を完結させるために、できるだけ機能を活かしてシステムに仕事を受け持たせること。これまでの業務フローに固執せず、柔軟な発想で臨んだことが功を奏しました。

DXで目指す今後の
展望を教えてください。

例えば、経理の日次業務である売掛金入金処理では、インターネットバンキングから銀行入金明細が取り込まれ、処理情報は学習を繰り返します。これにより、口座照合や金額入力の手間、入力ミスが大幅に削減。月次の請求書発行業務は、PDFの請求書をメールで送信する電子化もスマートになり、支払いもシステム内連携で手間を減らしつつ電帳法に対応できました。おかげで、業務に追われることなく、定時退社が日常化しています。

経理業務については、ほぼ完成形にたどり着きました。業務を楽にしたい、ボタンタッチする準備はできましたので、あとは次世代へのリレーをして

いかなければなりません。

また、会社が次に何をやるのか、経営がどうなっていくのか、それに応じたしくみづくりがDXです。で、引き続き、新たなテーマに取り組んでいくことになります。技術は進歩し、選択肢も広がってきましたが、今回導入したシステムは良くできたシステムですので、自身の経験が役に立つようなら、お困りの企業の支援もできたらと思っています。

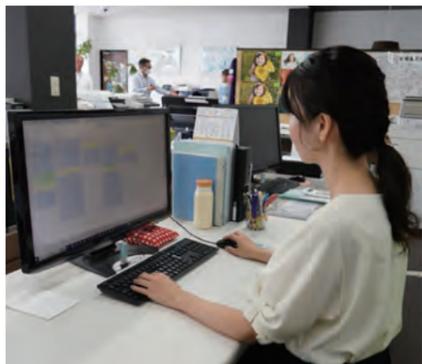


会社概要

【所在地】 静岡県藤枝市高柳 1-17-23
 【事業内容】 印刷全般、Web コンテンツ制作
 【創業】 1954 年
 【代表】 代表取締役社長 小林 武治
 【従業員数】 130 名
 【サイト】 <https://www.kpnet.co.jp/>

Web サイト





長年、独自の販売管理システムを利用していましたが、時代と共に業務フローも変化し、対応できない作業も徐々に増えていました。また、Windows 標準ブラウザの世代交代に伴い、Internet Explorer 向けに開発されたこのシステムを改良するか、あるいは

補助金活用前の状況を教えてください。

社員の声でシステムを改良 業務も保守も「標準化」へ

パッケージソフトに切り替えるかの選択を迫られました。悩んだ末に、今後の法改正への対応や保守のしやすさを考慮し、業務フローを標準化する方向に舵を切り、「商奉行クラウド」を導入することにしました。

どのような効果がありましたか？

それまではエクセルでの情報管理や手作業での入金消込作業が必要で、情報の分散や経理部門の負担がありました。新システムに情報が一元管理されたので、入金データの照合効率も向上。経理部門の負担が軽減しました。また、社外からも情報にアクセスし、販売履歴の検索やデータの編集が容易になったことで、日々の営業活動にデータを



事例 8 株式会社島村膳文堂

業務改善で提案力の向上を

オフィス用品の販売やプリントショップ、コワーキングスペースの運営など、快適なオフィス空間づくりを手掛ける株式会社島村膳文堂。常に時代の変化に応じた提案をするために、自社の業務改善にも積極的に取り組んでいます。



活用できるようになりました。あわせて、以前は販売管理の情報変更時に顧客管理システムも変更する手間がありました。システム連携によりその作業がなくなり、「こんなことができますか？」という現場の声と、それを形にしてくれる社員のおかげで、日々業務が改善しています。

DXで目指す今後の展望を教えてください。

まずは業務をいかに簡略化するかをテーマに、勤怠管理や会計などの領域でデジタル化やデータ連携を進



めていきたいと考えています。今回は販売管理システムを導入しましたが、その過程で年配の社員もエクセルを学び、新たなスキルを身に付けている様子に意識が変わってきていると感じました。こうした小さな変化の積み重ねがDXの第一歩になると思います。弊社では「快適なオフィス環境づくり企業」として、様々な用品の販売に加えてIT導入補助金の活用支援もしています。自らがDXに積極的に取り組むことで、今後も提案力を高めていくことを目指します。

今回の取り組みの目的

- 販売管理システムの入れ替え
- 業務フローの効率化・標準化
- データの活用

DXを実現するために補助金で導入したITツール

- 業務効率化
- OBC「商奉行クラウド」(販売管理)
 - 社内サーバー構築(販売管理データ参照用)

DXで目指すこと

- 業務フローの簡略化
- データ連携による情報集約
- 提案力の向上



会社概要

- 【所在地】 静岡県藤枝市田沼 1-15-8
- 【事業内容】 オフィス用品の販売・メンテナンス
- 【創業】 1962年
- 【代表】 代表取締役 島村 武慶
- 【従業員数】 24名
- 【サイト】 <https://www.toubundou.co.jp/>

Web サイト





元々、作業指示書や図面などの紙が多く、1物件で30〜40枚ほどの図面が存在しました。また、3つの工場と事務所を往來するので作業効率が悪くありませんでした。さらに、部品などの在庫情報も共有できてお

補助金活用前の状況を教えてください。

ペーパーレスと効率化実現 新たな課題にも目を向けて

らず、正確な原価や物件別の利益が厳密に把握できていない状況でした。そこで、6年前から取り組んでいる「QCサークル活動」の一環でデジタル化に取り組み、製造業向けの総合システムを導入しました。

どのような効果がありましたか？

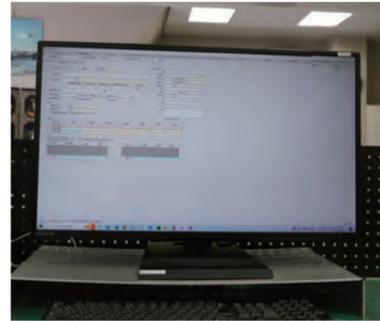
工場内のWiFi環境を整え、全ての作業台にタブレットを設置したことで、サーバーで共有した作業指示書や図面をタブレットで閲覧できるようになりました。当初は操作に戸惑い、抵抗感を抱く社員もいましたが、書類を拡大できる利点をはじめ、慣れてくると圧倒的にその作業環境が快適になり、ペーパー



事例9 東西工業株式会社

QC活動と連動したDX推進

-60℃から+150℃の断熱性能を誇る「極地御用達」の高性能パネルを製造している東西工業株式会社。QC活動を軸にデジタル化に取り組むことで、新たな課題とも向き合いながら、業務改善、品質向上、コスト削減などの様々な視点でDXを推進しています。



レス化は成功しました。ただし、紙の方が便利な場面もあるので、使い分けています。また、材料のカット寸法もシステムで自動計算され、作業時間の短縮やミス軽減の効果がありませんでした。その反面、計算理由を理解せずに作業を進めてしまえるのは、技術的に良くない面もあるという課題も認識できました。

DXで目指す今後の展望を教えてください。

製番ごとの管理をもう少し進めて、見積り生産納品までの原価や共有在庫の



管理の流れを整えていきます。その一環で、例えば、100円のネジが落ちていたら、それも大切な資産だと拾うような意識改革につなげて、管理と製造でのコスト意識のギャップも埋めていけたらと思います。また、工場と事務所の往來が減って効率化した反面、コミュニケーションが取りづらくなったとも感じます。DXを推進することで気づいた新たな課題も含めて、QCサークル活動に照らしながら、今後も弊社らしいDXを推進していけたらと考えています。

会社概要

【所在地】 静岡県藤枝市横内 1086-1
 【事業内容】 断熱パネルの製造・販売
 【創業】 1969年
 【代表】 代表取締役社長 杉山 友紀
 【従業員数】 54名
 【サイト】 <http://www.touzaikougyo.co.jp/>

Web サイト



今回の取り組みの目的

- 指示書や図面のペーパーレス化
- システム導入による作業の効率化
- 製番ごとの原価・在庫・一元管理

DXを実現するために 補助金で導入したITツール

業務効率化

- 「生産実務」(製造業向け総合ソフト)
- サーバー(オンプレミス=自社内運用)

DXで目指すこと

- 製番ごとの原価・在庫・一元管理
- コスト意識の向上と認識の統一
- QCサークル活動の追求





元々「Gaia10」という土木工事積算システムのパッケージ版を使用していましたが、材料単価の変動に伴う、手動での更新作業が手間でした。そこで、設計書を取り込むだけで自動積算できる機能を備えた

補助金活用前の状況を教えてください。

自動積算システムで効率化 若手がDX推進担い成果も

「Gaia Cloud」に移行することになりました。

どのような効果がありましたか？

新たな操作の習得や機能の検証などに少し時間はかかりましたが、以前より効率が上がりました。業務時間を短縮することができました。土木関係の材料単価は毎月変動し、発注先によっても差があります。以前は月刊の「物価本」を参照しつつ、データの入力を行う必要がありましたので、積算業務は専門知識が豊富な社員が担って

きました。

今回導入したシステムはクラウドサービスのため、月刊の物価本のデータが常に最新版に自動更新されています。発注先



事例10 株式会社エクノスワタナベ

DXで働きやすい職場づくり

「水と空気と緑のトータル企業」として、大正・昭和・平成・令和という時代の中で「自然と共生する快適環境提案業」に取り組んできた株式会社エクノスワタナベ。DX推進は、社員にとってより快適な環境を目指す「働きやすい職場づくり」でもあります。



に適した物価本を選択すれば自動的に積算を行うことが可能になりました。過去の類似データを検索し活用することもできるので、積算業務が効率化しただけでなく、この業務の担い手も育成しやすくなりました。この他にも様々なシステムを導入していますが、管理や経費を考え、全体的に整理できたらと思います。

DXで目指す今後の展望を教えてください。

また、全社員に支給しているスマートフォンをさらに活用するために、2年目

の若手社員が中心となり、「Microsoft 365」でアプリ開発を始めました。これまでに勤怠管理やアルコールチェック、日報などのアプリが誕生し、活用されていますので、今後も楽しみです。

さらに、各部署の若手社員が集う「DX推進委員会」もあります。対話を重ね、新しい学びを社内にも広める活動は人材育成の一環でもあります。若手のおかげで先輩たちも新しいものに触れ、業務改善を実感できています。今後もDXを推進しながら、働きやすい職場づくりに取り組みます。



今回の取り組みの目的

- パッケージ版からクラウド版への移行
- 材料単価の自動積算による業務効率化
- 誰でも扱いやすいシステム環境整備



DXを実現するために
補助金で導入したITツール

業務効率化

- 土木工事積算システム「Gaia Cloud」
(株式会社ビーイング)

DXで目指すこと

- 現場の負担を減らすシステム構築
- 若手社員が活躍できる機会創出
- 「働きやすい職場づくり」の推進



会社概要

【所在地】 静岡県藤枝市緑町 1-5-10
 【事業内容】 給排水衛生・空調設備工事、上下水道工事 Web サイト
 【創業】 1919年
 【代表】 代表取締役社長 渡邊 真行
 【従業員数】 87名
 【サイト】 <https://www.echnos.co.jp/>





発行年月：2024年8月

発行部数：2000部

<発行>

藤枝市 産業振興部 産業政策課

〒426-8722 静岡県藤枝市岡出山2-15-25

☎054-643-3165

<編集>

藤枝ICTコンソーシアム

〒426-0067 静岡県藤枝市前島1丁目7-10

BiViキャン内 ☎054-639-7164

この冊子は藤枝市の「地域DX牽引人材育成プログラム事業」の一環として企画・制作されました。